緒言

松山幸弘
Yukihiro MATSUYAMA
浜松医科大学整形外科学教室

今回「頭蓋・頸椎を含めた脊柱グローバルアライメント—首下がりを考える」をテーマとして特集を組んでいる.

首下がりを症候として呈する病態は様々である.

頭蓋頸椎移行部の問題，頸椎局所の問題，また頸椎胸椎移行部，胸椎，胸腰椎移行部の問題や腰椎局所の問題など多種多様である．さらに言えば股関節や膝，足関節の変形で脊椎グローバルアライメントの異常を呈することもある.

すなわち首下がりひとつとっても頭蓋頸椎移行部から腰椎仙椎，そして下肢のアライメントまで考慮しなければならない．また神経筋変性疾患から生じる首下がり，グローバルアライメント異常を呈することも忘れてはならない.

今回はこの首下がりを生じた脊柱変形に対し，頭蓋・頸椎を含めた脊椎グローバルアライメント，そして局所アライメント評価指標はどのようなパラメーターを指標としたらよいのかを論述していただいている.

そして主に頸椎変形が主体の首下がりアライメントの特徴，胸椎腰椎変形が主体で首下がりが生じた場合のアライメントの特徴，そして頸椎，胸椎腰椎双方の変化がともに関与している首下がりはどのようなアライメントの特徴があるかを明らかにしていただいた．すなわち構築性の変形が頸椎，あるいは腰椎，胸椎で生じた場合，代償カーブはどこでどのような形で行われているのかを知る必要がある.

首下がりのグローバルアライメント異常は，どこが構築性カーブで代償性カーブなのか，さらに矯正固定範囲を誤るとグローバルアライメントが改善するどころか，かえって悪化することもある.

この特集では，首下がり症候と変形矯正手術に造詣の深い8名のスペシャリストに参加していただき，グローバルアライメントの指標から手術療法を含めた適切な治療方法について論じていただく.

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2020

0557-0433/20/紙：¥800/電子：¥1200/論文/JCOPY
2026/09/25 17:49:46